

めぐみイエス・キリスト教会

2020年11月8日(日)第二主日礼拝
週報「通算第531号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年11月8日 第二主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.1詩篇第1篇 p. 879

【賛美Ⅱ】 新聖歌439「険しき山道か」 p. 710

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.13「主をほめたたえ続けよ」

【聖書朗読】 使徒の働き7章1節～15節(2017新約p. 244上段)

【礼拝説教】 《ステパノの弁明その一》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.神様が約束されたアブラハム(アブラム)への祝福とは？

※創世記12章1節～4節「アブラム七十五歳の時に」 (旧約p.17上段)

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、私が示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、私はあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 私は、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

12:4 アブラムは、主が告げられたとおりに出て行った。ロトも彼と一緒にであった。ハランを出たとき、アブラムは七十五歳であった。

●ポイント2. 「割礼」とは？

※創世記17章9節～12節前「アブラム九十九歳の時に」(旧約p.23下段)

17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫と共に、代々にわたり、私の契約を守らなければならない。

17:10 次のことが、私とあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべき私の契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。

17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、私とあなたがたの間の契約のしるしである。

17:12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に、割礼を受けなければならない。

※ルカの福音書2章21節～22節「主イエスの割礼」(新約p.111上段)

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

2:22 そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。

●ポイント3. 主イエスのひな形としての「ヨセフ」とは？

※創世記39章1節～3節「主がヨセフと共におられ」(旧約p.73上段)

39:1 一方、ヨセフはエジプトへ連れて行かれた。ファラオの廷臣で侍従長のポティファルという一人のエジプト人が、ヨセフを連れ下ったイシュマエル人の手からヨセフを買い取った。

39:2 主がヨセフと共におられたので、彼は成功する者となり、そのエジプト人の主人の家に住んだ。

39:3 彼の主人は、主が彼と共におられ、主が彼のすることすべてを彼に成功させてくださるのを見た。

※マタイの福音書1章23節「インマヌエルと呼ばれる」(新約p.2下段)

1:23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちと共におられる」という意味である。

◎先週のメッセージの概要【捕らえられたステパノ】

《さて、ステパノは恵みと力に満ち、人々の間で大いなる不思議とするしを行なっていました。つまり、真の神様が共におられる証しとしての奇跡を、十二使徒だけではなく七人の執事たちも行なうことが出来たのです。

ところが、リベルテン(自由を得た者)と呼ばれた会堂に属する人々が立ち上がって、ステパノと議論したと言うのです。彼らは、外国生まれで外国育ちであるにも関わらず、エルサレムに在住する生粋のユダヤ人よりも、律法や神殿礼拝を守ることに、異常なほどに熱心でした。

それゆえ、ステパノが宣べ伝えている主イエスの教えに対して真っ向から反対の意を表わしたのです。しかし聖霊に満たされていたステパノは、彼らを論破します。当然彼らは怒り狂います。そして彼らは、ある人たちをそそのかして偽りの証人を立て、主イエスの場合と同じように、民衆や長老たちと律法学者たちを扇動し、ステパノを捕らえさせたのです。

モーセの律法において、偽りの証人を立てることは、どれほど罪深いことであるのか書かれています。彼らは律法を厳守すると言いながらも、目的を成就する為ならば、いとも簡単に律法を破るのです。それだからこそ、主イエスは、律法学者のことを、「偽善者」と言われたのです。

かつて主イエスがたった一人で立たされた最高法院に、今度はステパノが独りで立たされます。この時、ステパノは聖霊に満たされ、その顔はまさに御使いのようであったとルカは書き記しています。まさしく神様がステパノと共におられると言うしるしです。それを目撃したのはサウロです。

訴えの訴訟内容が確認されると、すべての目がステパノに注がれました。ここから、いよいよステパノによる最初で最後の偉大な伝道メッセージが語られることとなります。まさしく主イエスが約束されたとおりです。『「人々はあなたがたを地方法院に引き渡します。そのとき、何を話そうかと、前もって心配するのはやめなさい。ただ、あなたがたに与えられることを話さなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です」』と。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月15日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、11月11日(水)に、各家庭において行ないます。